

# 今週の 視点 論点

「君の名は。」で大ヒットを飛ばした新海誠監督の最新映画「天気の子」が、7月19日より公開された。非常に注目度の高い作品であり、前作に引き続きヒット作となっている。多くの企業とコラボレーションしたテレビCMをご覧になられた方も多いのではないかと。ネタバレにならないよう、予告編やメディアでの事前PRで公表されている内容に限定するが、本作品の主要な題材の一つが異常気象である。筆者も公開直後に映画館で観賞した

が、世界的に気候変動や異常気象への関心が高まっている中で、新海監督が描くフィクションの世界が「不思議なリアリティー」を伴って観る者に迫ってくる作品だと感じた。

くしくも日本農業は今年、異常気象の影響に苦しんでいる。今年の梅雨時期、関東地方をはじめとした多くの地域で日照不足となった。7月の上旬から中旬にかけての関東地方の日照時間は例年の4割程度にとどまり、気温も例年よりかなり低かった。東京ではこの期間、ほとんど太陽を見ることがなかった。気象庁によると、都心部では20日連続で日照時間3時間未満の日が続いたとのことである。

このような日照不足により野菜の生育不良が発生し、野菜の価格の高騰が生じている。7月にはキュウリやナスといった夏野菜の小売店の店頭価格が通常の2倍程度に上昇し、家計に影響を与えている。

全国各地で相次いで梅雨明けを迎え、天候は回復傾向にあるものの、現在栽培中の農作物も梅雨時期の日照不足の影響を受けていることから、残念ながら品目によっては8月も高値傾向が続くと思われる。また梅雨

## 「異常気象」と農業の付き合い方



### 三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター  
エキスパート

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。18年7月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。18年6月から農林漁業成長産業化支援機構社外取締役。

明け後は一転して猛暑となっており、今後は高温障害が懸念される。筆者はテレビのコメンテーターも務めているが、近年は日照不足、水不足、猛暑、豪雨、台風、大雪といったさまざまな気象の影響により、毎年のようにテレビで農産物の価格高騰の解説をしていると感じる。逆に農産物の価格高騰が話題にならない年の方が珍しいとも言える。

筆者が全国の農業者と話す際にしばしば話題に上るのが「平成の米騒動」だ。平成の米騒動とは、平成5（1993）年の記録的な冷夏による米不足のことである。フィリピンの火山噴火の影響により、例年より2〜3度も気温が低い夏だった。

全国の作況指数は74と歴史的な低さを記録した。90が「著しい不良」

の水準であり、まさに未曾有の不作となった。冷害の被害の中心である東北地方だけでみると作況指数はさらにその半分程度の水準にまで下がり、一部地域ではまったく米が収穫できないという事態まで発生した。

その影響で買い占めが発生し、小売店や米屋の店頭から米が一時的に消え、その後もタイ米などの輸入米とのブレンドが義務化されたりと、まさに騒動という名称の通り、社会は大混乱となった。食糧貿易のない江戸時代以前であれば飢餓で甚大な被害が発生していたらろう。

平成の米騒動を踏まえ、東北地方を中心に、冷害に強い品種の導入が進んだ。かつての主力品種であったササニシキを店頭で見なくなったのはその影響である。

ただし気候への対策は一筋縄ではない。冷害への対応が必要な一方で、マクロ的な傾向としては温暖化による高温障害に適応しなければならぬからだ。

気候変動は、長期的な傾向・変化と、突発的な事象である極端現象に分けられる。従来よりも振れ幅の広い気象条件が避けられないが、現実の世界では「天気の子」に頼るわけにもいかない。

農林水産省を中心に継続的に品種改良が進められるとともに、最近ではIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）といった先端技術によるリスク低減が期待を集めている。農産物は人間の生命を根本から支える不可欠なものであり、対策が急がれる。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構代表取締役専務）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センター エクスパート）が交代で執筆します。

## 時代を読む。

### 山陰中央新報 政経懇話会

- 多彩な講師陣
- タイムリーなテーマで確かな情報提供
- 松江、米子、浜田、益田の4地区で開催

入会などの問い合わせは

山陰中央新報政経懇話会事務局  
tel.0852(32)3477